

天才鏡花の初版全集の超豪華装丁版を完全複製！

監修/村松定孝(上智大学名誉教授・文学博士、泉鏡花研究会代表幹事)

鏡花全集

全15巻



泉鏡花 春陽堂版
生誕百二十周年記念



◆美術工芸的造本の特徴

装丁/天金総絹透絵金線造本
特装函/天地リベット金具止め

《発刊にあたり》

本全集は、泉鏡花自らが五十歳の誕生日を記念し、鏡花自身が陣頭指揮に立ちすべてに鏡花自身が目を通し、編集参訂者も当時一流の作家、小山内薫、谷崎潤一郎、里見淳、水上瀧太郎、久保田万太郎、芥川龍之介が担当した、生前刊行唯一の全集で、春陽堂が総力を挙げて編集して刊行した文芸全集の最高傑作である。造本にあたっては、鏡花のたつての希望により、当時一流の画家で装丁でも知られる岡田三郎助画伯があたり、今でも美術工芸的価値が高い天金総絹透絵金線の豪華な造本となっており、化粧函も天地をリベット金具で止め新しい様相を引き出している。本全集は「非売品」の初版本全集で、発刊は大正十四年(一九二五)七月から昭和二年(一九二七)七月までに、文芸出版の老舗春陽堂から全十五巻で発刊されたものである。出版数も当時としては高額であり各巻共数百しか発刊されず「幻の鏡花全集」と言われる所以で、多くの鏡花ファンを魅了した羨望の超豪華愛蔵版初版全集である。

此処で小社では多くの鏡花ファンの方々が鏡花の薫りがする本全集の複製のご要望に応えるべく、鏡花の生誕百二十年を記念し、散逸著しい原本を集めその中より觀賞に耐えるものを選定し底本として、当時のままで復元し、美術工芸的造本も手作りで当時に忠実に「完全複製」して刊行した。

今迄の全集では決して味合うことができない美術工芸的価値と文学が一体となった、鏡花の幻想の世界と日本語の美しさを最大限に追求し、發揮した集大成で、泉鏡花の本質を心行くまで堪能して頂けたら幸いです。

泉鏡花略歴

本名・鏡太郎。父は彫金師、母は能役者松本金太郎の妹。11歳で母を失う。一八七三年(明治6)石川県金沢市に生まれる。一九三九年(昭和14)没。享年66歳。一八九〇年(明治23)17歳の時上京し尾崎紅葉に師事し、紅葉の最愛の内弟子となる。弟女作は、『冠編左衛門』。主な代表作は、一八九五年以降、『義経快血』、『龍の白練』等を発表。特に『夜行盗査』、『外科室』(一八九五年)を出すに至って、観念小説の代表作家と称された。これらの作品は個人の自由を阻害する社会機構や習俗に対する批判と抵抗を含むと共に至純な愛情の絶対価値を高めた。『照葉狂言』(一八九六年)に少年期の哀切な年上に対する思慕を、『湯島詣』(一八九九年)に快楽の巷の女性の純愛を写した。彼は、『高野聖』(一九〇〇年)によって象徴神祕の境地を描いて上田秋成依頼の成功を収めた。『風流録』(一九〇三年)は、草双紙趣味をみながら明治の物語的作品であり、『婦系圖』(一九〇七年)は、彼の夫婦生活に村をとって、封建的な家族制度や結婚制度に反抗する意図をもっている。さらに、『歌行燈』(一九一〇年)は、能楽師の世界を背景に芸道の威厳を高めて『高野聖』とともに彼の代表作となった。彼の名声は一八九七年(明治30)代において絶頂に達し、尾崎紅葉、幸田露伴以後の小説界の最高峰となった。彼の芸術の本質は、あこがれと反抗に要約され、その豊富な語彙と奔放的な空想とをもつてする自在な文章は、日本語の美しさを最大限に發揮されたものと言われる。西洋の近代文学の感化は比較的少なく、かえって謡曲、江戸小説、浄瑠璃、民話伝説等、伝統的な文芸の諸要素をもって一九とした最後の物語作家で、明治以降の小説界における最も誠実なロマン主義者であった。



エムティ出版



●特装面(天地に4カ所を金具リベット止)

鏡花芸術の薫りと共に 美術工芸的価値までも忠実に完全復刻



●印刷の体裁/小村雪岱、濱野英二画伯



◎装丁/岡田 三郎介画伯

日本語の美しさを極限まで追求し発揮した鏡花の魅力のすべて!!

刊行の辞

春陽堂版「鏡花全集」全15巻の復刻版刊行の意義

ここに春陽堂版「鏡花全集」の復刻を刊行する意義につき、以下、三つの特色を掲げておきたい。

その第一は、本全集が泉鏡花の生前刊行の唯一の全集である点が注目されることである。大正14年7月より昭和2年7月にかけて、全15巻の刊行が実現をみた。春陽堂書店は、この刊行に際して、小山内薫、谷崎潤一郎、里見弴、水上瀧太郎、久保田万太郎、芥川龍之介の六名に編集参訂の任を委嘱、泉鏡花みずから挿頭指揮に当たったことは、いうを待たない。鏡花の創作活動は明治25年の20歳に発し、本全集刊行の時期に至るには三十余年を闊している。

作品数は五百余篇を数え、新聞雑誌に掲載のまま単行本に及ばなかったものは、もとより、断簡零葉をも一つ残らず集めることと、全体を小説、戯曲、隨筆の三方面に分ち、それぞれを年代順に排列する方針がとられている。ちなみに、本全集刊行後、鏡花は14年後に永眠。その時点で、岩波書店より本全集に収録以後の作品も加え、全28巻の全集が刊行されたが、おおむね、本全集の編集を基礎とするものであった。参訂者も、ほとんど、本全集のメンバーによって構成された。そうした意味からも、春陽堂版全集の文学史的意義は重要といわねばならない。

最後に、本全集の美術的成果が顧られる。印刷の体裁は小村雪岱、渚野英二の両氏が当たり、装幀は岡田三郎助画伯の意匠に成り、総柄張り、天金の典雅華麗さを誇るに足る。以上の特色を以て、この復刻が鏡花研究家の資料に役立つ、且つ美本鑑賞の好事家の要望に答え得るならば幸いである。



上智大学名誉教授・文学博士
泉鏡花研究会代表幹事
村松定孝 (監修者)

鏡花研究上、必見の資料!

芥川龍之介の格調高いイメージ「鏡花全集日録開封」で有名な春陽堂版鏡花全集は、明治以来鏡花本の大半を手がけて来た文芸出版の老舗が総力を挙げて作った全集の白眉である。その第一の特色は、大正14年3月までの全作品を年代順に集めたもので、鏡花自身が目を通し、すべてにその意志が働いていることであろう。この全集で重要な評註が加えられた作品も少なくない。後後の岩波版全集も本文・分類・配列に至るまで基本的にはこれを踏襲しており、研究上必見の資料だ。

特色の第二は造本的美術工芸的価値である。装幀は著者のための希望によって、「草迷宮」の装幀で知られる岡田三郎助があたった。天金総柄透絵金線の豪華な造本はいかにも誇耀たる鏡花世界にふさわしく、一冊の美術品としても愛書家の鑑賞にたえるものだが、今日古本市場でも値の高い美本をみることは稀だ。今回の復刻は研究者や愛好家の飽をいやすに足るものとなる。



早稲田大学教授
泉鏡花研究会会員
東郷克実

【本全集の特色】

- 1 生前刊行唯一の「幻の鏡花全集」
自らが陣頭指揮にあたり、編集参訂者には、小山内薫、谷崎潤一郎、里見弴、水上瀧太郎、久保田万太郎、芥川龍之介が担当した。
- 2 当時の原文復元の作品の数々
作品の掲載は、各巻とも完全復刻により、字体、用字、仮名づかい、句読点、圈点等、鏡花原稿に忠実に編集されているので、鏡花芸術の原典にふれることができる。
- 3 巻頭に日本画の大家の挿し絵も数多く掲載
当時を忍ばせる鏡花直筆の挿し絵や草稿、著名画家の岡田三郎助、鍋木清方、小村雪岱等が鏡花の作品のために描いた挿し絵も多数掲載され、他に尾崎紅葉が病床の枕上で鏡花の原稿に削正したものも収録されている。
- 4 美術工芸品としても価値の高い、超豪華装丁
鏡花自らが生誕五十年を記念し企画、印刷の体裁は、小村雪岱、渚野英二が担当し、装丁には、岡田三郎助画伯があたり天金総柄透絵金線、特装函入の超豪華愛蔵版とした。体裁にも鏡花の細やかな心使いが感じられる。
- 5 日本語の美しさを極限まで追求発揮した当時の表現と文体
日本語の美しさを限りなく追求し発揮した、観念小説や幻想文学、詩人としての鏡花の魅力のすべてが、当時のままの表現や文体で堪能することができる。

「初版本」でなければ語れない

“天才”泉鏡花の世界を

文学の薫りと共に、

美術工芸的価値の高い造本までも

完全に復刻!

超豪華愛蔵版 全15巻

◎体裁/菊判(天地226×左右150)、上製、天金装組透絵金線造本、直筆の草稿・画賛・挿し絵・写真等多数収録、各巻平均870頁、天地リベット金具止特装函入

本体価格 238,000円

◎発行/

出版の未来を考える

株式会社 **エムティ出版**

◎発売元/お申込、お問い合わせは下記まで・・・



